

(対象事業：美術館・博物館の自主企画による諸外国との交流展覧会等の事業等)

事業名： 日韓文化芸術交流史の解明と普及による芸術文化拠点形成事業 事業者名： 芸術拠点形成事業大阪市実行委員会 連携事業館名： 大阪歴史博物館（基幹館）、大阪市立美術館、大阪市立東洋陶磁美術館、大阪市立自然史博物館、大阪市立科学館、近代美術館（仮称）建設準備室、財団法人大阪市文化財協会 住所： 大阪府中央区大手前4-1-32 TEL： 06-6946-0989 FAX： 06-6946-2662 HPアドレス： www.mus-his.city.osaka.jp	
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--

①施設概要 大阪歴史博物館は、旧大阪市立博物館の移転・改築にともない、難波宮跡のサイトミュージアムとして遺跡に関する考古学の資料センターとしての機能を併せ持つ博物館として、平成13年11月3日に開館しました。建物の10～7階が常設展示場、6階が特別展示場となっています。常設展示では「都市おおさかの歩み」と題して、古代難波宮の時代から近代・現代に至るまでの大阪の歴史・文化を紹介しています。また、数千冊の図書や百数十タイトルのビデオを備えた「なにわ歴史塾」（2階）を無料で開放したり、館内に保存した遺跡のガイドツアーを1日6回実施しています。

②事業の意図目的 当実行委員会では、平成14年度から基幹館を中心に様々な館種の構成館が連携して、海外交流展覧会やその関連事業を実施して来ました。こうした事業を通じて広く韓国文化芸術に関する最新成果の紹介・普及に努めることで、両国の文化芸術に関する理解促進を図るとともに、多数の韓国・朝鮮籍住民が居住する大阪において、市民・国民の参画できる総合的な文化芸術拠点の形成を目指しています。

③事業概要 本事業では、昨年度に引続き、次のテーマを掲げ事業を実施しました。
 テーマ1「朝鮮時代の文化・芸術の特徴と我が国への影響」では、大阪歴史博物館を会場に、平成16年11月25日（木）～12月6日（月）の期間で「メドゥーザ—韓国人間国宝飾り結びの技と美—」を開催し、韓国指定重要無形文化財保持者金喜鎮氏の作品51点を中心に合計102点のメドゥーザを一堂に展示しました。
 テーマ2「高麗青磁の成立・発展と我が国への影響」では、平成16年9月18日（土）～12月12日（日）の期間で、大阪市立東洋陶磁美術館において日韓国際交流特別企画展「高麗青磁の誕生—初期高麗青磁とその展開—」を開催し、韓国の博物館から借用した高麗青磁の発掘資料ほか約110点を展示しました。

④事業の製作物及び報告書等

事業の製作物 テキスト ワークシート その他（展示会解説パンフレット）
 作成した報告書等
 ビデオ（ ）
 冊子（平成16年度芸術拠点形成事業（展覧会事業等支援）報告書）
 その他（ ）

⑤参加者状況

参加者人数 延べ 26,395人

内 訳 テーマ1 展覧会入場者15,692人、テーマ2 展覧会入場者10,703人

(1) 事業の実施状況について

ア) 海外交流展「メドゥプー韓国人間国宝飾り結びの技と美」の開催

① 展覧会の概要

名 称：平成 16 年度文化庁芸術拠点形成事業(展覧会事業等支援)特集展示「メドゥプー 韓国人間国宝飾り結びの技と美」

会 期：平成 16 年 11 月 25 日(木)～12 月 6 日(月)、火曜日は休館、開館日数 11 日

開館時間：午前 9 時 30 分～午後 5 時、ただし金曜日は～20 時まで

主 催：大阪歴史博物館、芸術拠点形成事業大阪市実行委員会、駐大阪大韓民国総領事館・関西韓国文化弘報院

会 場：大阪歴史博物館 8 階 特集展示室

観覧者数：10,703 名

② 講演会の概要

日 時：平成 16 年 11 月 27 日(土)、午後 2 時～3 時 30 分

場 所：大阪歴史博物館講堂

講 師：金喜鎮氏(韓国指定重要無形文化財保持者)

演 題：「メドゥプの技と伝統」

参 加 者：56 名

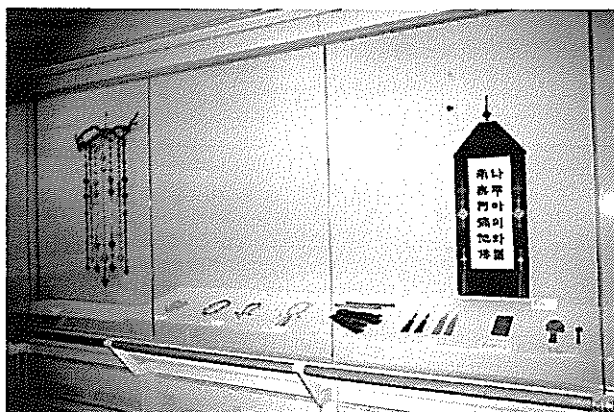
③ 準備と撤収の状況

・事前調査

メドゥプの展示方法の調査と資料借用の打ち合わせのため、平成 16 年 9 月 21 日～22 日まで、大阪歴史博物館学芸員を韓国国立中央博物館に派遣し、同館で開催中の特別展「メドゥプ」における展示台や演示具の形状、照度など展示方法等の調査を実施するとともに、遺物管理部の担当学芸員に面談し、借用資料の最終確認、保存状態のチェック、資料写真の提供依頼、協約書の内容に関する打ち合わせを行った。

・集荷と展示

韓国国立中央博物館遺物管理部学芸員立ち会いのもと、11 月 23 日～24 日の 2 日間で、韓国国指定重要無形文化財保持者の金喜鎮氏制作のメドゥプ 51 点ならびに韓国メドゥプ研究会会員制作のメドゥプ 51 点の開梱・チェックならびに展示を実施した。



展示のようす

なお、24 日午後には金喜鎮氏および韓国メドゥプ研究会会員立ち会いのもと展示の最終チェックを行い、展示品の入れ替え、ノリゲの房の調整等を実施した。

・撤収と返却

韓国国立中央博物館遺物管理部の担当学芸員立ち会いのもと、12 月 7 日～8 日の 2 日間で展示資料のチェックと梱包を完了した。その後、借用資料は 12 月 10 日夕方に遺物管理部学芸員同乗の航空機で韓国まで輸送され、無事、国立中央博物館に運び込まれた。

イ) 海外交流展「高麗青磁の誕生—初期高麗青磁とその展開」の開催

①開催概要

名 称：日韓国際交流特別企画展「高麗青磁の誕生—初期高麗青磁とその展開」
“The Birth of Goryeo Celadon, Early Goryeo Celadon and Its Development”

会 期：平成 16 年 9 月 18 日（土）～12 月 12 日（日）（開館日数 71 日）

開館時間：午前 9 時 30 分～午後 5 時（ただし、入館受付は午後 4 時 30 分まで）

休 館 日：月曜日（ただし、9/20、10/11 は開館）、9/21(火)、24(金)、10/12(火)、
11/4(木)、24（水）

主 催：大阪市立東洋陶磁美術館・芸術拠点形成事業大阪市実行委員会

会 場：大阪市立東洋陶磁美術館 企画展示室および展示室 A

観覧者数：計 15,692 人

②準備開始から撤収・返却までの行程

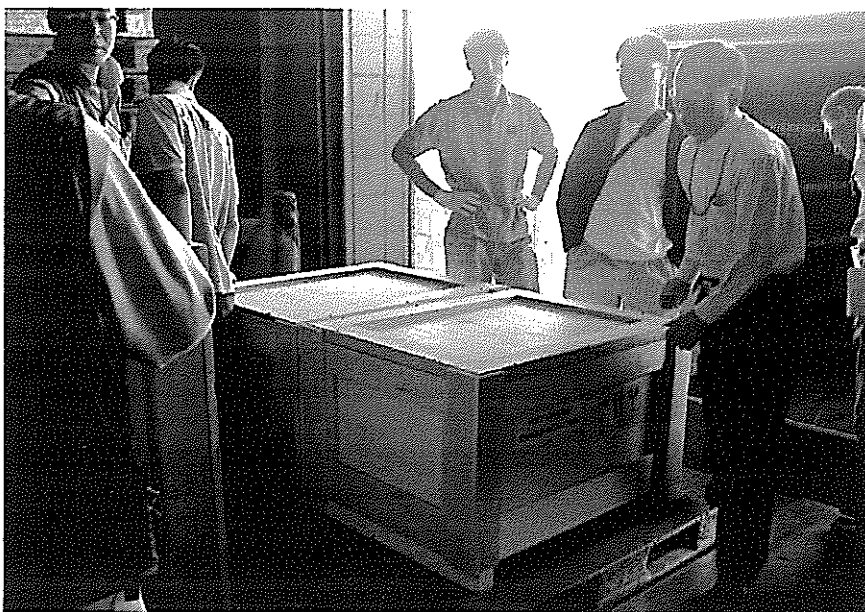
・集荷

<9 月>

1 日～3 日 韓国国内集荷（湖巖美術館、海剛陶磁美術館、康津青磁資料博物館）

6 日 日本側学芸員の韓国出張

7 日～8 日 海剛陶磁美術館にて作品検品・梱包



韓国での集荷のようす

9 日	韓国税関検査
10 日	作品輸送（ソウル→大阪）日本及び韓国側クーリエ同乗
13 日	日本税関検査、展示
14 日～17 日	展示
18 日	開幕
・撤収と返却	
<12 月>	
11 日	韓国側クーリエ来日
12 日	閉幕
13 日～14 日	撤去、検品、梱包
15 日	作品輸送（大阪→ソウル）学芸員及び韓国側クーリエ同乗
16 日～17 日	海剛陶磁美術館にて開梱、作品検品
18 日	帰国

（２）地域との連携について

ア) の事業について、駐大阪大韓民国総領事館・関西韓国文化弘報院とは共催することを通じて、韓国国立中央博物館からは作品の借用および展示にあたって、それぞれ全面的な協力を得ることができた。

イ) の事業については、湖巖美術館（現 Leeum 三星美術館）、海剛陶磁美術館、康津青磁資料博物館ならびに関係者各位から多大な協力・支援を得た。

（３）成果物について

ア) の事業については展示解説（A3 判二つ折り）を作成して、主要作品の写真を収録するとともに、簡単な技術の解説等も行った。また、二つの展覧会の事業概要を記録した「平成 16 年度芸術拠点形成事業（展覧会事業等支援）報告書」を作成した。

（４）参加者の反応

ア) 海外交流展「メドゥプー韓国人間国宝飾り結びの技と美一」について

今回の展覧会は、日本で韓国メドゥプを紹介する最初の本格的な機会となったことから、「日本結び文化の会」会員や日本の組紐関係者など、関係方面の多くの人びとから高い関心が寄せられ、会場では丹念に展示品に見入る人びとの姿が見られた。また、A3 判二つ折りのリーフレットを作成して主要作品の写真を収録するとともに、簡単な技術の解説等も行った。さらに、実物の展示だけではわかりにくい制作技術を紹介するため、会場で駐大阪大韓民国総領事館提供のビデオ「韓国メドゥプ」を放映した。このビデオは金喜鎮氏自身が、糸づくり、糸の染め、組紐づくり、結びなど、メドゥプの制作工程全般を詳しく紹介したもので、日本ではこれまで一般に公開されることがなかったビデオであり、熱心に見る人が目立った。

展覧会に関連して、平成 16 年 11 月 27 日（土）午後 2 時から、大阪歴史博物館講堂において、金喜鎮氏による講演会（90 分）を開催した。講演会は「メドゥプの技と伝統」というテーマで、スライドを交えながら今回のためにつくられた日本語のレジュメにもとづ

き、メドゥプの歴史および結びの種類と用途について解説が行われた。韓国伝統メドゥプの第一人者である金氏の日本における今回の講演会は、ライフワークとして取り組んでこられたメドゥプの収集・研究・復元の成果をもとに、メドゥプの魅力をわかりやすく紹介したもので、メドゥプをとおした韓国の文化芸術の奥深さや、日本との共通点などについての理解を深める機会を提供することができた。講演会には組紐の関係者をはじめとする 56 名の参加を得た。

また、12 月 4 日(土)の午後には、展示場で担当学芸員による展示解説(30 分)を行い、おもに金氏制作のメドゥプを中心に見どころを紹介した。一般の来館者とともに、「日本結び文化の会」会員諸氏の参加を得た。

なお、マスメディア関係でも「韓国伝統の装飾品ずらり」というタイトルで本展を紹介する写真付き新聞記事((6) 項参照)が掲載された。また、メドゥプに関心をもつ遠く関東方面の方から、いくつか展示内容に関する問い合わせがあり、展示リーフレットを送付した。

イ)「高麗青磁の誕生—初期高麗青磁とその展開」について

今回の展覧会は、やや専門的な内容に加え、窯跡の陶片資料を中心とした展示となったため、一般市民にとってはややなじみにくいのではという心配があったが、結果的には当館における近年の同規模の展覧会中、最多の観覧者を得て好評を博した。

展示は 2 部構成で、窯跡の陶片資料を中心とした第 1 部では、学習重視の分かりやすい展示を心がけたこともあり、専門家のみならず一般観覧者からもよく理解できたという評価をいただいた。また、これまで当館では破片を中心に扱った展示はあまり例がなかったためか、窯跡出土の陶片資料に多くの重要な情報が含まれているということが、観覧者にとっては新鮮な驚きでもあったようである。専門用語については、やはりとまどう観覧者も多かったようであるが、写真や絵図、さらには関連する中国陶磁などの比較資料も併せて展示するなど、視覚的な分かりやすさを工夫した。

また会期中、当館ビデオライブラリーで平成 15 年度の本事業で制作したオリジナルビデオ「初期高麗青磁—研究の最前線—」(約 25 分)を放映したが、非常に分かりやすく、展示内容を理解する一助となったと好評で、販売や貸出しを望む声を多数いただいた。

一方、第 2 部では第 1 部とはがらりと雰囲気を変え、館蔵の高麗青磁の名品を中心に、鑑賞に重点を置いた展示を行った。館蔵の「安宅コレクション」が中心であったことから、通常陳列との差別化については限界があったが、館蔵品でも初公開のものや普段あまり展示しないものをできる限り出品した。また展示解説についても、最新の研究成果を反映した参考写真付きの見やすいものを新作するなど、工夫に努めた。

(5) 芸術拠点形成事業を実施したことによる効果

海外交流展「メドゥプ—韓国人間国宝飾り結びの技と美—」では、初日の開会式に金喜鎮氏や韓国メドゥプ研究会会員のほか、「日本結び文化の会」副会長や会員、日本の組紐関係者など、飾り結びや組紐に関わる日韓両国の多数の関係者が参加し、日頃の活動を語り合うなど相互交流を深める機会となった。開会式の後に行われた金氏による展示解説では、結びの種類やその意味するもの、刺繍によって表された蝙蝠や蓮華等の文様の意味など、メドゥプに込められた韓国女性の伝統的な世界観について、参加者の理

解を深めることができた。また、11月27日に開催した金氏による講演会（「メドゥプの技と伝統」）でも、ライフワークとして取り組んでこられたメドゥプの収集・研究・復元の成果をもとに、メドゥプの魅力をわかりやすく紹介してもらうことができた。

本展とその関連行事は、本物の作品紹介に加え、金氏自身による解説や講演の機会を通じて、市民が韓国の文化芸術の奥深さや日本との共通点などについての理解を深めるとともに、日韓の関係者が交流を深める機会を提供することができ、たいへん有意義であったと考える。

「高麗青磁の誕生—初期高麗青磁とその展開」では、近年、ともすれば専門的、学術的な展示が敬遠されがちな中で、専門性が高く学術的に意義の大きい展覧会を開催することができ、また一般観覧者からも一定の評価を受けることができたことは、極めて意義深いことと考える。特に、今回の展覧会は韓国の最新の学術成果を日本で初めて紹介するという意味で、小規模ながらも日韓の文化交流を考える上で画期的な展覧会の一つになったといえる。

本展覧会を迎えるまでの3カ年に及ぶ準備や各種事業、さらに今回の展覧会開催を通して、広く市民に韓国を代表するやきものの一つである高麗青磁に対する理解や認識を深めてもらい、さらにそこから韓国文化への一層の理解と親しみをもっていただくことができたと考える。また、今回の展覧会は韓国での最新の研究成果をいち早く紹介したもので、いまだ結論が出ていない問題も少なからずあるが、引き続き韓国側とは協力関係を保ちながら研究の深化に努めたい。

今年度は、これら二つの展覧会とその関連事業を通じて、韓国の伝統文化であるメドゥプや代表的なやきものの一つである高麗青磁に対する理解や認識を深めてもらうことで、韓国文化への一層の理解と親しみをもっていただく機会が提供できた。

また、3年間に及ぶ本支援事業を通じて、「朝鮮時代の文化・芸術の特徴と我が国への影響」、「高麗青磁の成立・発展と我が国への影響」、「韓国の近代デザインと日本—プサンと大阪の視点」の3テーマの下に構成館が協力・連携し、大阪市を中心とした地域における日韓両国の文化芸術に関する理解促進と、市民・国民の参画できる総合的な文化芸術拠点の形成という目的が達成できたと考える。